

緑の少年団一年間の活動について

ヒノキアスナロ緑の少年団

団長（沖館小学校6年） ○米谷和世

班長（沖館小学校5年） ○高村桃子

1 はじめに

ヒノキアスナロ緑の少年団の学習の基本は「地球の自然が教える道」を、よく学び、自分で考え、勉強して緑に囲まれた美しい故郷を創り、心ゆたかな立派な人間になることです。

ヒノキアスナロ緑の少年団は、地域の人たちで育成している少年団で、誕生してから18年になると聞いています。

私たちは、この学習の基本にもとづき活動しています。

今日は、ヒノキアスナロ緑の少年団の一年間の活動について発表します。

最初に少年団の活動を写真で紹介します。



写-1

平成11年度東北森林管理局・青森分局の植樹祭に参加しました。

みんなでブナの苗木を植えました。

雨降りの中での植樹祭になってしまいました。



写-2

植樹祭の会場で青森林業土木協会から紙芝居をいただきました。
これからの少年団の活動に有効に使いたいと思います。



写-3

植樹会場の一角にブナの種を地まきしているところです。
芽がでてくるのが楽しみです。



写-4



写-5

青森分局前庭のケヤキの木と野木和公園のサクラの木に、シジュウカラ用の
巣箱を取り付けました。
高いところや「はしご」のぼりも平気です。



写-6



写-7

菅野高原やロープウェー付近でゴミ拾いをしている状況です。
ゴミのない「美しい環境」と「ゆたかな自然」をつくることも
緑の少年団の大きな目標です。
毎年続けておこなっています。



写-8

ブナの木が、どのようにして大きくなっていくのかを調べるために、ブナ林の中の稚樹の生長等について毎年調査しています。樹木が環境に大きく関係しているということを少年団の活動をとおして知りました。



写-9

ブナの林の中では美しい花や実に出会えます。



写-10



写-11

「ジャガイモ」と「ダイコン」を掘っているところです。
畑を借りてジャガイモやダイコンの作り方も学びました。
ジャガイモ、トマト、ダイコンなどは南米のアンデス地方から長い年月を経て日本に入ってきたことを知りました。
世界の食料事情なども活動をとおして知ることができました。

2 一年間の取組について

今年も4月29日の緑の日がやってきました。緑の少年団一年の行動の始まりです。今年も合浦公園で「緑の募金」活動を行いました。

午前中2時間位の時間でしたが、おじさん、おばさんたちが「ごくろうさん、がんばってね」と、声をかけ募金してくれたことがとても嬉しかったです。

募金をしてくれた人のなかでは、20代や30代の人が少ないように思いました。集まった3万円以上の募金は緑化推進委員会に送りました。

5月27日には、東北森林管理局・青森分局の植樹祭に参加しました。

植樹祭の時のためにと、私たちが平成7年に種をまいて育てていたブナ苗木30本と緑化推進委員会からいただいたセンノキの苗木5本を植樹しました。

センノキは、酸性雨が降っても土壌を中和する働きがあり、森林を被害から守るということを知りました。

日本一美味しい水のでる八甲田の森林を、酸性雨から守ってほしいと願いながら植えました。

また、植樹祭の会場の一角に約3.3m²の場所を設けてもらい、ブナの種約400粒を地まきました。

ここ2～3年ブナの種が不作で新しい種がなかったので、家庭の冷蔵庫の中で3年間約5℃の温度で貯蔵していた種を使いました。

8月、9月、10月に発芽の状況を調べましたが、残念ながら芽が出ませんでした。

しかし、この失敗により「種の貯蔵方法による発芽の状態の違い」や、「ブナの種は毎年豊作ではない」ということも知ることができました。

次に、私たちが5年前から調査しているブナ林のことについて発表します。

場所は、萱野高原から酸ヶ湯方面へ国道を約4km進んだところの、青森分局のブナ指標林の中です。

標高680m～700mで、樹齢は120年位たっているそうです。

ブナを伐採した後に自然にできた林です。

これをブナ二次林というのだそうです。

この林の中に1m×1mの枠を2ヵ所設けました。

比較的日のあたる場所と、日のあたらない場所でのブナの稚樹の発生や生長の違い、他の植物の状況などを調査しました。

最初の調査から5年になりました。

今日はこれまでの途中経過を発表します。

私たちは最初ブナの稚樹の樹齢の見方がわかりませんでした。先生方から教わりました。

春に種から芽を出し秋に葉が落ちるまでに、普通約10cm程度伸びて、本葉を2～4枚位つけます。

秋になって、この葉が全部落ちてしまった後に来年の芽が残ります。

この芽の中に、来年の春に開く葉が小さな形が入っています。

そして、この小さな葉が冬の寒さで凍らないようにと、堅い鱗のような鱗片が重なって、寒さから守っているのです。

春になって、ブナの根が活動し始めると、小さい葉が大きく中から開いてきて幾重にもなっている鱗片が落ちて、その後に丸い輪が残ります。

この輪が芽鱗痕と呼ばれています。

これより先がブナの2年目の始まりだそうです。

私たちは、最初に拡大鏡で確かめながら樹齢を決め、生長を計りました。

小さいブナの木々の樹齢を調査するには、この方法が用いられているそうです。

表-1 日のおたる所です

単位はcmです

	平成7年調査		8年調査		9年調査		10年調査		11年調査		5年調査(樹高)		
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
1	(20)2	10	(25)3	12	(31)4	16	(37)5	19	(50)6	20	6年	30	10
2	12	8	14	12	16	14	18	17	20	18	8	10	
3	10	6	12	0	15	0	17	0	18	0	8	0	
4	10	10	14	14	16	15	19	19	20	21	10	11	
5	15	7	18	0	19	0	20	0	22	0	7	0	
6	19	10	20	14	20	18	0	22	0	22	0	12	
7	13	6	16	0	17	0	18	0	21	0	8	0	
8	10	10	13	0	15	0	18	0	20	0	10	0	
9	16	10	18	14	21	15	24	17	26	18	10	8	
10	10		16	(7)	18	10	19	0	19	0	9	0	
11	8		0	(7)1	0	(8)2	0	(8)3	0	(9)4	0	4年	2
12	10		10		10	(6)1	10	0	0		0	0	
13	8		0		0	(8)1	0	0	0	0	0	0	
14	(18)2		(25)3		(30)4		(38)5	0	(49)6		6年	31	
15					(6)1		(8)2	0	(12)3		3年	6	
16					(6)1		(8)2	0	(12)3		3年	6	
樹令1年平均													
12本-1175	9本-85		2本-70	2本-60	2本-70								
樹令2年平均													
2本-190		10本-155	5本-132	12本-152	2本-90	2本-90							
樹令3年平均													
		2本-25			5本-188	1本-19	1本-80	2本-12			2本-60		
樹令4年平均													
						8本-18	5本-188	1本-19	1本-9	1本-90	1本-20		
樹令5年平均													
						2本-375		7本-21	5本-198	7本-87	5本-102		
樹令6年平均									2本-485		2本-305		
計	14本	9本	12本	7本	14本	9本	13本	6本	12本	6本	12本	6本	

() 書は最初の調査(平成7年)の時に既にあったものと、その後に発生したものの樹高で、右の小数字は樹齢です。

最初、平成7年に調査したとき2年目にかかっているのが2本あり18cmと20cmにもなっていました。

あわせて23本あつたのですが、その後毎年調査したところ、新しく芽が出たり反対に枯れてなくなるものもありました。

Aブロック全体の平均は、1年目 11.75 cm, 2年目 15.1 cm, 3年目 16.7 cm
4年目 18.1 cm, 5年目 20.8 cmで6年目の2本については、平均で 49.5 cmと
なっていました。

Bブロック全体の平均は、1年目 8.6 cm, 2年目 13.2 cm, 3年目 14.7 cm, 4
年目 18.8 cm, 5年目 19.8 cmの高さになっていました。

後から新しく芽がでたAブロックの1年目は平均6 cm, 2年目8 cm, 3年目で12
cmまで伸びました。

Bブロックの新しい芽1年目は7 cm, 2年目9 cm, 3年目で1本枯れ, 4年目で9
cmでした。

表-2 日のあたらないところす

単位はcmです

No.	7年		8年		9年		10年		11年		5年間成育	
	Aブロック	Bブロック	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
1	7	6	8	8	10	8	10	8	0	0	4年で枯	4年で枯
2	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1年で枯	1年で枯
3	7	7	8	0	9	0	10	0	11	0	4	1年で枯
4	5	8	6	12	6	18	7	22	7	25	2	17
5	6	6	6	0	7	0	8	0	0	0	5年で枯	1年で枯
6	7	7	8	8	8	8	10	9	0	10	5年で枯	3
7	10	10	12	14	13	17	14	19	15	21	5	11
8	9	7	10	7	12	8	14	10	16	0	7	5年で枯
9	6	10	0	11	0	12	0	13	0	14	1年で枯	4
10	10	15	14	20	18	27	22	38	25	47	15	32
11	6		8		10		12		13		7	
12	6		7		10		14		16		10	
13	10		13		16		13		20		10	
14	10		15		18		20		23		13	
15	8		0		0				0		1年で枯	
平均樹長												
	7.5	8.2	9.58	11.43	11.42	14.0	13.25	17.0	16.2	23.4	8.1	11.6
計	15本	10本	12本	7本	12本	7本	12本	7本	9本	5本	6本	5本

日のあたらないところ3年目を見てみると、Aブロック平均 11.4 cm, Bブロック
14 cm となっています。5年目で6本枯れて9本残っています。

5年間でAブロックでは平均 8.1 cm, Bブロック平均 13.4 cm伸びました。

3 まとめ

学習会のなかで先生は、3年目で平均11~15 cmあれば「まあまあだ」と言っ
ていましたが、この場所の調査では、日のあたるところの3年目の平均はAブロック
で16.7 cm, Bブロックで15.6 cm, , 日のあたらないところはAブロック
で11.4 cm, Bブロックで14.0 cmでした。

笹などのために、日のあたらないところは、芽をだしても何年かで枯れています。

調査結果からみると平均以上に生長していることがわかりましたが、日のあたらな
いところは生育があまりよくないことがわかりました。

また、カモシカやノウサギ, ネスミなどの哺乳動物によっても、ブナの種子や稚樹

の葉などが食べられ被害を受けていることもわかりました。

その他に甲虫類や蛾の被害もあるそうです。

平成2年の春には八甲田山の裾野の田代平から谷地温泉一体が帯状にブナアオシャチホコという虫の被害にあい、ブナの葉が全部食べられてしまったという話を聞きました。

この虫の被害は記録によると、約10年位に一度の割合で発生すると聞きました。

葉を食べられたブナの木は枯れることはないそうですが、生長は遅れているのではないかと聞きました。

私たちも、このブナ林の調査をすることを機会に、もっと自然を注意深く観察し、発見し、勉強していく必要があると思いました。